

緑化センター

みにがいど

No.4

芸達者なヤマガラ

レストハウス東側の広場にあるえさ台にヤマガラがやってきます。ヤマガラは“里のスズメほど山にいる小鳥”ということから漢字で「山雀」と書くように里山ではほとんどの所でその姿を見ることができます。雑木林の中で静かにしているとヤマガラの方から近づいてきて様子を伺うように見ていることがあります。人おじせず慣れやすいことが特徴といえます。昔は、縁日などでかごから出されたヤマガラが1円玉の寶錢をくわえて小さな社殿の前の寶錢箱に入れ、鈴を鳴らして扉を開けておみくじをくわえて戻ってくるという芸をさせることもありました。今では飼うことができませんのでなつかしい昔話になりました。



ヤマガラ シジュウカラ科

ヤマガラはスズメほどの大きさの小鳥で、動作は速く、目の前にきても明確に色合いを見ることが難しいほどである。頭の黒、胸の栗色に顔の白色などの特徴的な配色が愛嬌の良さを感じさせる小鳥で、昔は飼育され芸を仕込んだりすることがあったが現在は飼育できない。

緑化センターの林にも年中住み着いており、巣箱もよく利用して繁殖している。4~7月にかけて5~6羽のヒナを育て、巣立ってもヒナがひとり立ちするまでの2,3週間くらいは家族で一緒に行動している。

クヌギ、コナラなどの広葉樹の林で蝶や蛾の幼虫、エゴノキやウメドキの実などを食べる雑食の性質があり、たいていの環境に適應している。サクラやウメなどの花木やシイ、ブナなどの樹木にとっては害虫を取ってくれる益鳥でもある。

文と写真 吉見良一氏 03.4.2 撮影

コーヒーで一息入れませんか
緑化センター レストハウス